

●住民主体の地域活動を推進

公民館と地区センターの一元化

市は、4月から公民館と地区センターを一元化します。地域づくりと自主的な学習活動を、地区センターが一体的にサポート。地域の皆さんが学んだことを生かして地域の課題を解決できるように、取り組みを展開します。

■本庁まちづくり推進課市民活動係（江刺総合支所内線321）



地区センターの役割

地区センターは「自主的な学びと実践の場」身近な集いや交流の場」としてだけではなく、地域と行政をつなぎ、市民に寄り添い支える役割を担います。

市は、地域づくり活動の拠点である地区センターに、生涯学習や社会教育事業を展開する公民館を一元化。地域の課題解決に向けた取り組みを、一体的に支援します。

地域と市の関係

地域の身近な課題には、地域住民が自ら考え行動すること、よりきめ細かく対応することができます。そのため

ことで地域課題を解決することができま

市は、地区振興会の持続的な発展と力量を向上させるため、▼コミュニティ計画の策定と事業推進の支援▼地区振興会の運営支援▼地域づくりリーダーなどの人材育成▼活動に必要な情報提供――などの取り組みを強化します。

には、各種団体が個々に活動するだけでなく、皆で話し合い、地域に必要な取り組みを協力して行うことが必要です。市は、このような取り組みを支援するとともに、地域だけでは解決できない課題の解決に取り組みます。

地区振興会の役割

地域の課題を掘り起こし、地域づくりに先導的に取り組む地区振興会は、市民と行政との協働を進める重要なパートナーです。

地域コミュニティ計画は、地域での合意形成のもとに作られる「地域づくりの基本計画」です。その魅力的な事業に多くの人が参加・協力する

地区センターのこれから

地区センターは、皆さんと行政をつなぐ最先端の拠点として活動していきます。公民館との一元化により、使いやすくなり親しみやすい施設に生まれ変わった地区センター。皆さんのご利用をお待ちしています。

■公民館と地区センターの違い

	公民館	地区センター
施設の機能（性質）	社会教育施設	公的コミュニティ施設
施設の長	公民館長	地区センター長
設置・運営主体	教育委員会事務局（直営）	市長部局（直営）
設置根拠	社会教育法 奥州市立公民館条例	地方自治法 奥州市地区センター条例
職員体制	公民館長 公民館長補佐（主査）	地区センター長 地区センター次長
事務事業の概要	生涯学習 社会教育事業	地域づくり事業の支援 生涯学習活動の支援（市・自治区で共通的に取り組むものは教育委員会が所管）
施設の使用制限（営利、政治、宗教）	社会教育法で禁止	生涯学習活動や地域づくりの推進に寄与するものは可
施設の使用料	これまでと同じ	



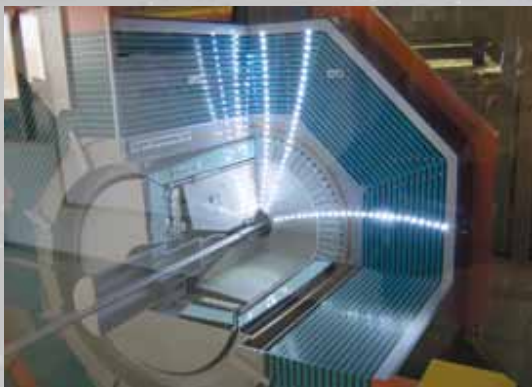
希望のひかり 第1回

市は、震災復興の象徴に位置付けられている国際リニアコライダー（以下、ILC）の東北への誘致に向けて取り組んでいます。これから、ILC計画の最新情報と市の取り組みについて隔月で連載していきます。

KEK見学会に参加

県南広域振興局主催の高エネルギー加速器研究機構（KEK）見学会が、2月下旬に開催されました。

KEKは、筑波研究学園都市の北



素粒子の衝突を観測するBelle検出器模型

部に位置し、高エネルギー物理学・加速器科学などを研究する、日本が世界に誇る最先端物理研究施設です。東北や九州が建設候補地となっている、ILC計画推進の中心的役割を担っています。

KEKには無料で見学できる常設展示ホールがあり、施設の概要や加速器に関する研究の様子を知ることができます。

施設内に設置された加速器のうち最大規模のものは、1周3キロにも及ぶ円形加速器です。KEKの敷地を最大限に活用して設置されたこの加速器は、電子・陽電子衝突型加速器で、昭和61年に実験を開始しました。実験精度を向上させるため、現在も最新技術を取り入れた改造を繰り返しています。

平成20年に小林・益川先生がノーベル物理学賞を受賞しましたが、両先生の理論の正しさを証明したのは、この円形加速器の実験結果です。KEKでは、ILCの建設に必要な加速器の製造技術についても研究しています。ILCが実現することで、宇宙や物質が誕生した起源の解明など、科学技術の大きな発展が期待されます。



KEK施設地下に1周3キロの加速器が設置されている

出前講座に職員を派遣します

市は、ILCに関する出前講座を2月28日、江刺区で開催しました。この取り組みは、同区の岩谷堂商店街連合会からILCに関する勉強会を開催したいとの要請があり

実現したものの。「ILC計画の概要と今後の見通し」について、市の担当者が解説しました。日常生活の中で加速器の研究から派生した技術が使われていることや、ILCで何を研究しようとしているか、ILCができる東北がどう変わるのかなどを詳しく説明。予定の講演時間を超過したにもかかわらず、参加した17人の会員は、講師の話に真剣に耳を傾けていました。

会員からは、東北や沿岸部の復興、発展につながるILCの実現に向けて「自分たちもできることに取り組みたい」という、力強い発言もあり、ILC建設への期待を膨らませています。

市は、10人以上の団体を対象にILC出前講座を行っています。お気軽にお問い合わせください。

ILCについての質問を募集

本コーナーではILC計画について、皆さんからのご質問にお答えいたします。メール、ファクスでお気軽にご質問をお寄せください。

■問い合わせ 本庁政策企画課広域連携推進室（内線417、FAX22533、✉kouiki@city.oshn.iwate.jp）